

# **(仮称)道の駅猪苗代基本構想**

**平成 24 年 3 月**

**福島県猪苗代町**

## 目 次

<b>1. 道の駅整備の目的</b> .....	1
<b>2. 道の駅とは</b> .....	2
(1) 道の駅の概要 .....	2
(2) 道の駅が求められる理由 .....	2
(3) 東日本大震災での道の駅の役割 .....	2
<b>3. 基本理念・方針・目標</b> .....	3
<b>4. 設置位置</b> .....	7
(1) 利用者の設定 .....	7
(2) 設置位置 .....	8
<b>5. 導入機能</b> .....	9
(1) 休憩機能 .....	9
(2) 情報発信機能 .....	10
(3) 地域連携機能 .....	11
(4) 防災機能 .....	13
(5) その他機能(集客機能) .....	14
<b>6. ソーニング</b> .....	15
(1) 条件整理 .....	15
(2) 導入機能・施設の整備方針 .....	16
(3) 施設配置(案) .....	18
<b>7. 実現に向けて</b> .....	19
(1) 主体的な住民参加の推進 .....	19
(2) 事業手法 .....	19
(3) 管理・運営 .....	19
(4) その他留意点 .....	20
<b>8. 委員会名簿</b> .....	21

## 1. 道の駅整備の目的

猪苗代町は、福島県のほぼ中央に位置する猪苗代湖の北岸に位置し、東西北の三方を秀峰会津磐梯山をはじめとする吾妻、安達太良、川桁山系の山々に囲まれ、山と湖が織りなす雄大で美しい自然に包まれています。



図 猪苗代町位置図

猪苗代町は農業と観光の町として、稲作を基幹に野菜・花き・畜産・そばなどの農業生産活動と美しい自然資源等を活用した観光・リゾート地として振興を図ってきました。しかし、米価の低迷や農業従事者の高齢化・後継者不足の顕在化など農業を取巻く環境は厳しい状況が続いています。また、観光産業においても、全国観光地間における競争の激化、バブル経済崩壊後の景気の低迷などで厳しさを増しています。さらに平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災時の福島第一原子力発電所の事故がもたらした風評被害により、あらゆる産業が大きな打撃を受けています。

一方で、「磐梯山ジオパーク」が認定されるなど新たな観光振興の機会も生まれています。

このような状況のもと、猪苗代町では、町の観光資源と磐越自動車道など高速交通体系の整備や会津地方の玄関口としての優位性を積極的に活かして、活力と希望にあふれた町づくりのための政策構想の一つとして、「道の駅」の設置を掲げました。

この政策構想に基づき、町に情報発信、地場製品の販売、就労の場の確保および地域経済の活性化、さらには町民の安全を守る全ての災害対策等を目的とした道の駅を設置するため、公募町民を含む 25 名から構成される（仮称）道の駅猪苗代整備検討委員会を立ち上げました。

「（仮称）道の駅猪苗代基本構想」は委員会での助言を踏まえ作成したものです。今後は、この基本構想に基づき、基本計画や実施設計などを通じて具体化を進めていきます。

なお、委員会の名簿は巻末に掲載します。

## 2. 道の駅とは

### (1) 道の駅の概要

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄れ、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。

また、人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し、多様で個性豊かなサービスを提供することができます。

さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや「道」を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生しました。



### (2) 道の駅が求められる理由

ドライバーは旅の途中でいろいろなことを求めます。休憩の場、買い物の場、道路交通情報、観光情報そして食事。そんなドライバーの要求を満たすことが、地域のメリットにもつながります。ドライバーと地元のふれあいの場として、「道の駅」は個性を広げ、より魅力的になります。

#### 「休憩」ニーズ

「道の駅」の利用目的は、休憩とトイレの利用が最も多くなっています。また、「道の駅」利用者の大半が「道の駅」を旅行の行程に組み込んでいます。

#### 「情報発信」ニーズ

「道の駅」利用者の大半に、地域の道路情報や歴史・文化・観光等の情報発信等の公的な施設としての役割が評価されています。

#### 「地域の連携」ニーズ

「道の駅」利用者は、食事や地域の特産品の買い物を目的としており、地域からの提供の場が求められています。

### (3) 東日本大震災での道の駅の役割

「道の駅」は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、広い駐車スペースを利用した災害応援の活動拠点や地域住民や道路利用者の一時避難場所といった防災拠点として機能しました。また、被災地への物流が滞る中、最寄品や農家から直接仕入れた農産物を販売することで、被災者ならびに生産者に活力を与え、地域コミュニティの維持に貢献した「道の駅」があるなど、「道の駅」の基本機能である「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」の3つの機能のほかに、新たな機能として「防災機能」が注目されています。

### 3. 基本理念・方針・目標

#### 基本理念

ひと・もの・情報をつなぎ会津を、そして猪苗代を元気にする道の駅

#### 基本方針

- ・自然景観を楽しみながら町民も来訪者も快い休憩ができる道の駅
- ・会津の玄関口として広域的に的確な情報を受信・発信する道の駅
- ・地場産品を味わい農業と自然を体験できる道の駅
- ・町民と道路利用者が安心して避難できる道の駅

#### 基本目標

- ・リピーター率の向上を目指します

#### 自然景観を楽しみながら町民も来訪者も快い休憩ができる道の駅

磐梯山と猪苗代湖に代表される猪苗代町の自然は、私たちの生命の源としてばかりではなく、地域のシンボルや観光資源としてもかけがえのない財産です。近年の観光客の減少はリピーターの数が少なくなったことが一つの原因として挙げられ、観光振興策として、観光客に良いイメージを与えるための景観形成が必要です。

（仮称）道の駅猪苗代は、町民や休憩する道路利用者に憩いと安らぎを与え、観光客に猪苗代町のファンになってもらうことで何度も訪れたいような場とします。



#### 会津の玄関口として広域的に的確な情報を受信・発信する道の駅

会津地方には、会津若松市の鶴ヶ城や白虎隊、喜多方市の蔵の街並みやラーメン、北塩原村の磐梯朝日国立公園に含まれる桧原湖や五色沼など約300の湖沼からなる国内でも屈指の高原リゾートがあります。そして磐梯山麓に位置する猪苗代町、磐梯町、北塩原村の雄大な自然景観とスキー場をはじめとするアウトドアレジャー施設など、多彩で特色のある観光資源を育んできました。平成23年には磐梯山が人と大地の関係を楽しみながら学習できる自然の公園として、日本ジオパークに認定されています（猪苗代町、磐梯町、北塩原村での認定）。観光動向をみると北関東や新潟方面からの来訪が多い一方で、近年観光客は減少傾向にあります。

（仮称）道の駅猪苗代では、会津地方の東の玄関口として、様々な情報の中から町民や道路利用者、観光客に有益な情報を受信・発信し、地域全体の活性化に寄与します。

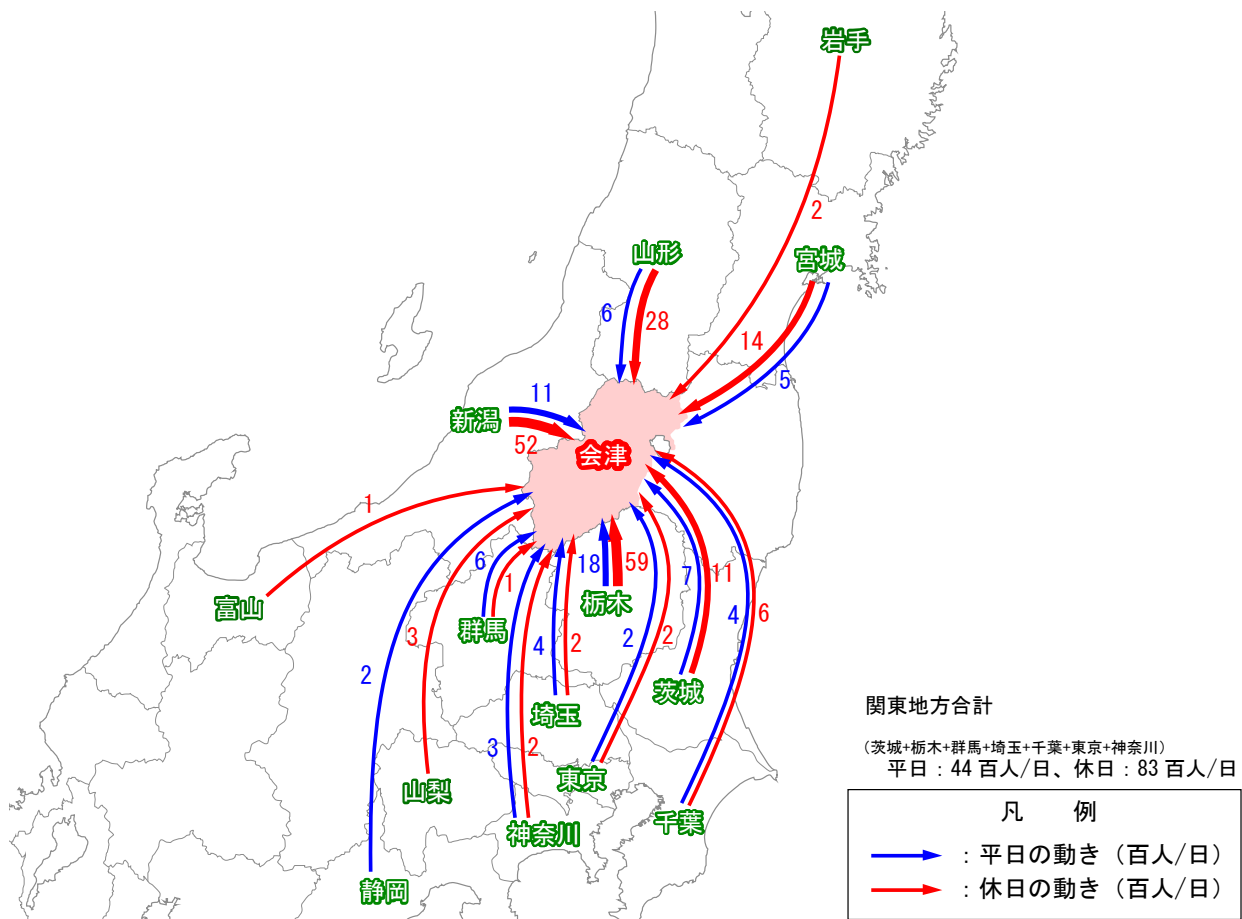


図 会津地方への観光を目的とした自動車等利用による旅客流動

資料：第4回（2005）全国旅客純流動調査（国土交通省）

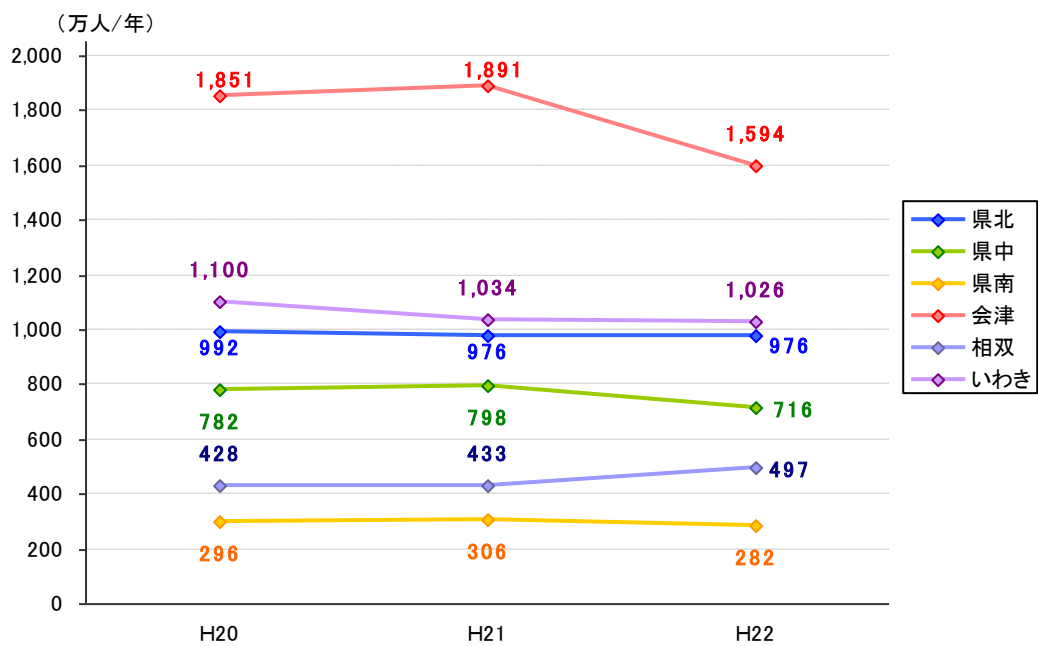


図 会津地方の観光客の推移

資料：福島県観光客入込状況（福島県商工労働部）



## 地場産品を味わい農業と自然を体験できる道の駅

猪苗代町は、農業と観光の町として振興を図ってきました。農業においては、稲作を基幹に生産活動を行ってきましたが、生産調整や米価の引き下げなど経営状況は極めて厳しい状況にあります。一方で、磐梯トマト・アスパラガス・そば・花き等が市場において高い評価を得ており、猪苗代町を代表するブランドとして確立しつつあります。

観光面では、平成18年をピーク（366万人）に観光客が減少し、平成22年には163万人となっています。特に宿泊客の減少が著しくなっています。バブル崩壊後の景気低迷およびこれまでの“見る観光”から“体験交流する観光”への志向の変化等により、“見る観光”に大きく依存してきた猪苗代町は、こうした変化に対応した新たな体験型観光交流レクリエーションの推進が課題となっています。

（仮称）道の駅猪苗代では、加工販売、直売等による消費の拡大と地産地消ならびに、農業体験に取り組み、グリーンツーリズム等の受け入れ支援などにより都市住民との交流を促進します。

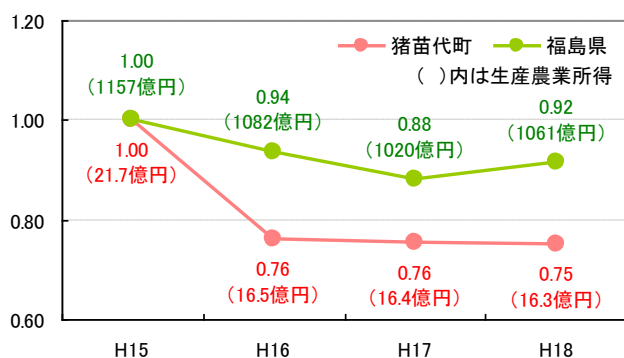


図 猪苗代町および福島県の生産農業所得の推移

資料：生産農業所得統計

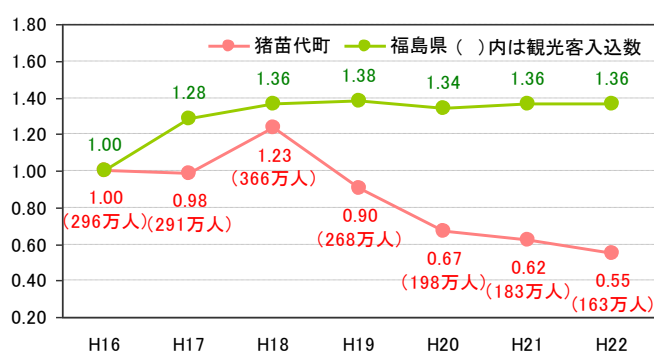


図 観光客入込数の推移

資料：福島県統計年鑑、  
福島県観光客入込状況



資料：いなわしろ体験学習推進協議会 HP



## 町民と道路利用者が安心して避難できる道の駅

一方、町内には、ドクターヘリ離着陸場や災害時の臨時離着陸場が10箇所整備されています。

(仮称)道の駅猪苗代は、東日本大震災での道の駅が防災拠点を担った役割も踏まえ、「雪害

\_\_\_\_\_

# 磐梯山火山防災マップ

このマップは今後磐梯山が噴火した際、火山災害がおよぶ可能性がある区域を示しています。磐梯山の噴火の特徴を多くの方に知っていただき、各家庭や関係機関での防災に役立てていただくことを目的としています。このマップで想定している火山災害は1888年（明治21年）と同程度のもです。実際の噴火ではこの図と異なる場合もありますので、噴火の状況に即した対応が必要となります。また、噴火する際に前兆現象が現れた場合は、気象庁発表の火山情報が伝達されますので、その情報に注意しましょう。

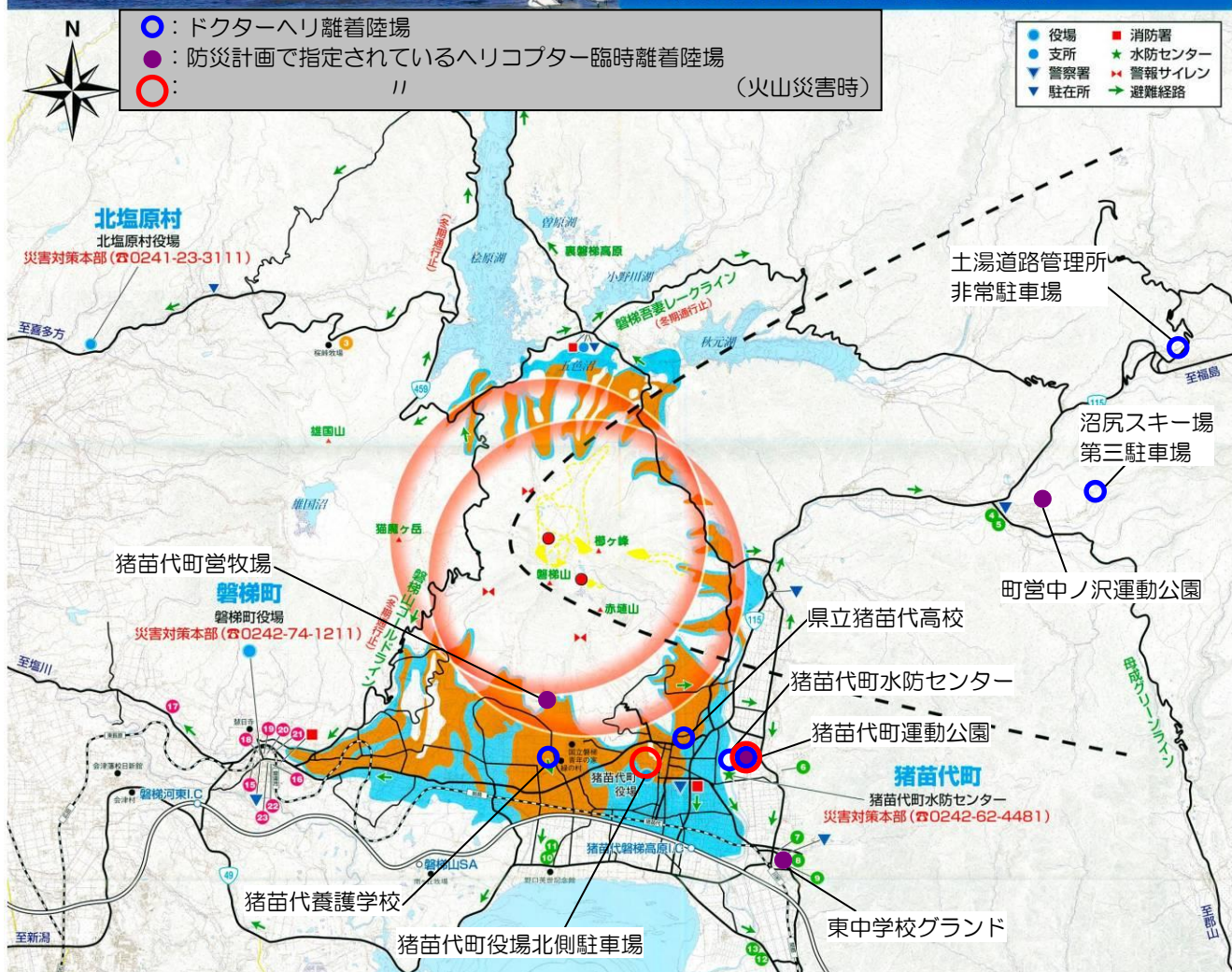
[illegible]

図 猪苗代町内へリポート位置図 資料：猪苗代町地域防災計画、福島県立医科大学附属病院 HP



## 4. 設置位置

### (1) 利用者の設定

猪苗代町の観光客入込数は夏が最も多く、次いでスキーシーズンの冬となっています。逆に4～6月と10～12月は少なくなっています。また、景気の低迷などによる観光客数の減少もあります。猪苗代町へは平日に県外から来訪する乗用車交通量が少ないことから、観光客のほとんどが休日に訪れていることも想定されます。

一方、猪苗代町を東西に横断する磐越自動車道や国道49号は、それぞれ1.3～1.5万台/日程度の交通量があります。その他の主要道路も6千～1万台/日程度の交通量があります。

道の駅は多くの人に利用されることが望まれます。そのため、観光客の少ない時期でもドライバーに立ち寄ってもらうことで、年間を通して道の駅が多くの人に利用されることにつながります。

また、にぎわいのある道の駅では、安定した経営を行うために、地元の人に日常的に利用してもらえるいろいろな工夫をしています。

以上から、(仮称)道の駅猪苗代は、観光客はもとより、日常的に道路を利用するドライバーや町民にも愛される道の駅を目指します。

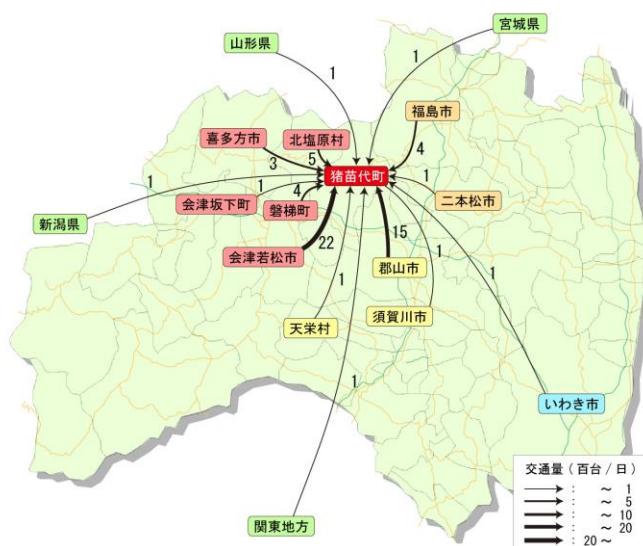
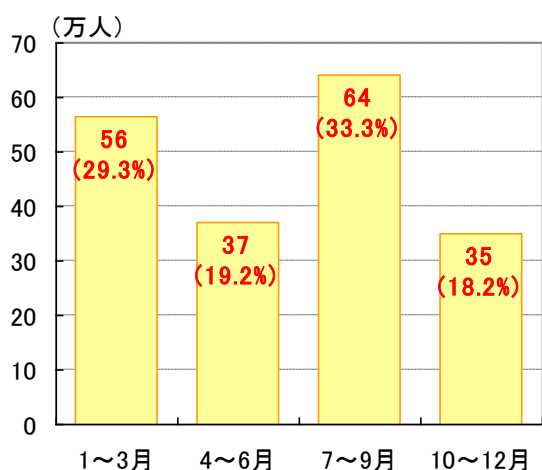


図 猪苗代町の季節別観光客入込数

図 猪苗代町内へ流入する平日の乗用車交通量(H17)

資料：猪苗代町資料

資料：国土交通省H17OD交通量

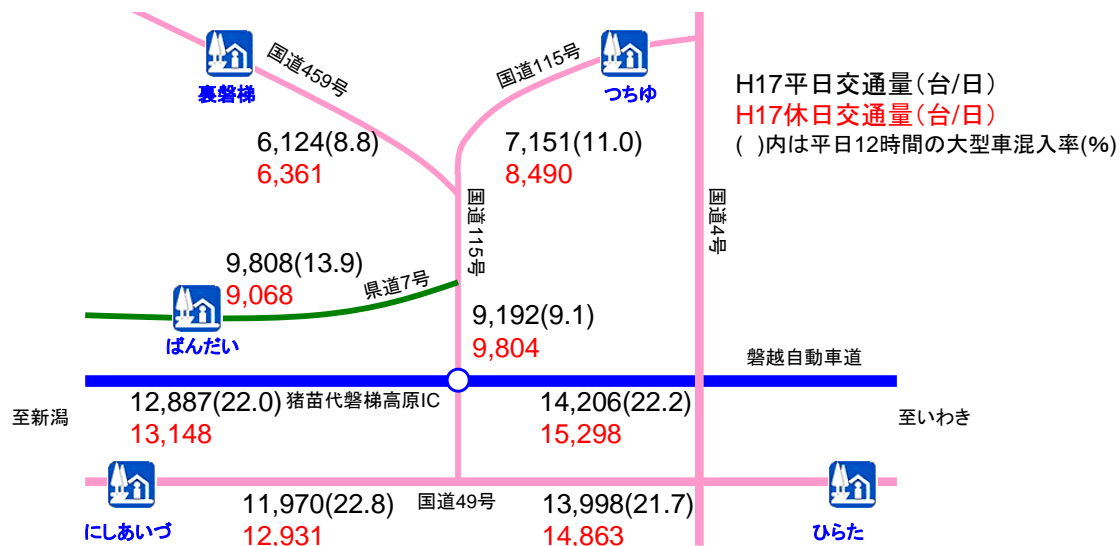


図 周辺道路の交通量

資料：H17 道路交通センサス

## (2) 設置位置

道の駅は、休憩施設としての利用しやすさや、道の駅相互の機能分担の観点から、適切な位置に設置する必要があります。目安としておよそ 15～25km 間隔で設置されています。

(仮称) 道の駅猪苗代は、猪苗代・磐梯山エリアの玄関口（エントランス）として位置づけられ、町内で最も交通量の多い国道 49 号および磐越自動車道猪苗代磐梯高原 IC 周辺に整備します。これにより、多くの人に利用されるとともに、国道 49 号の休憩施設空白地域の解消、磐梯山が噴火した場合でも離着陸できるヘリポートの整備が可能となります。

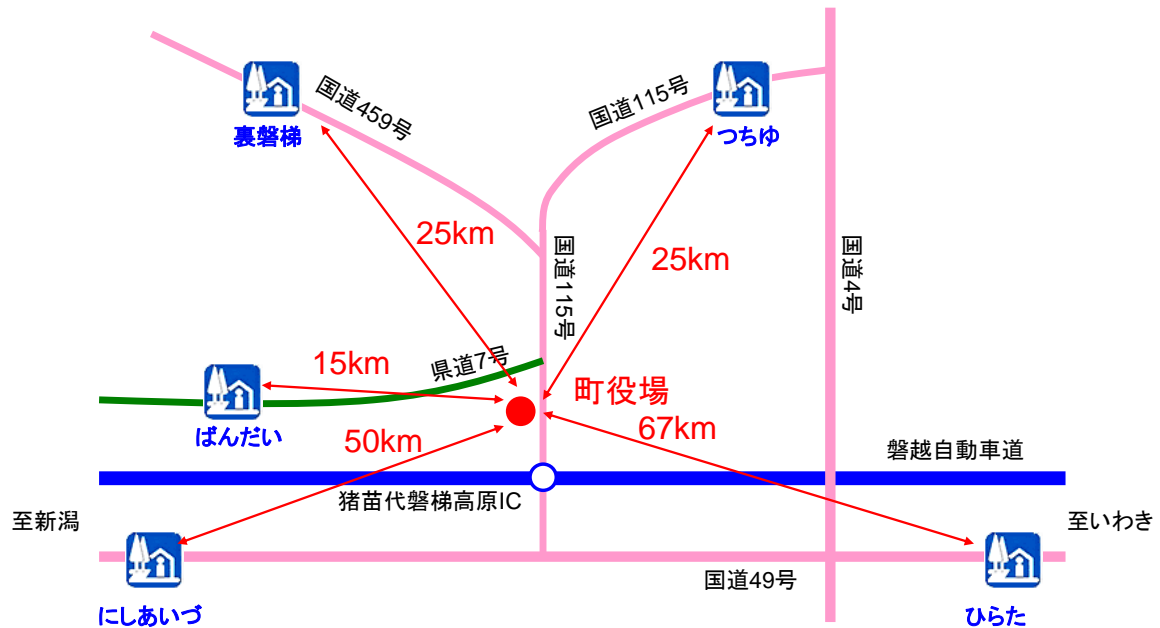


図 他の道の駅と町役場の距離

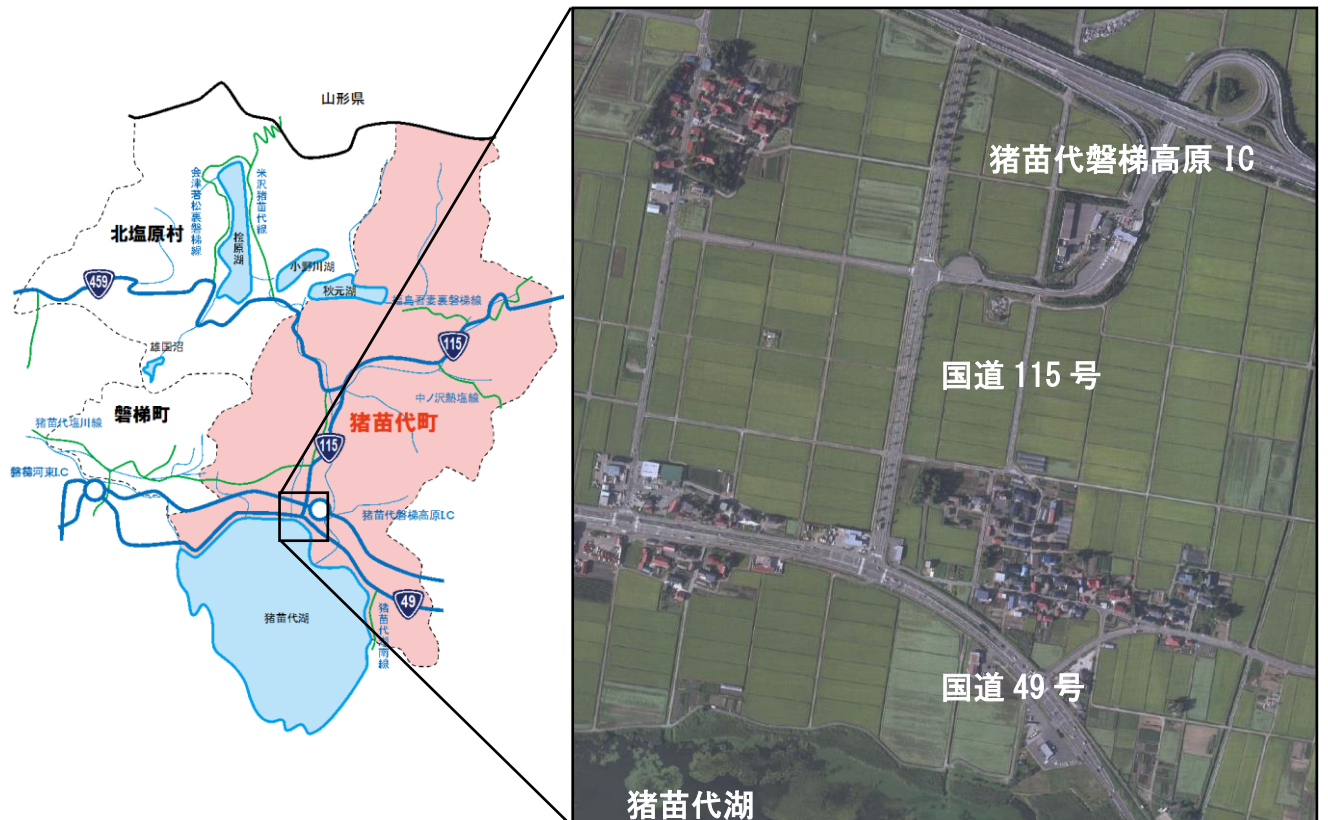


図 道の駅設置位置

## 5. 導入機能

(仮称) 道の駅猪苗代の基本理念・方針・目標を実現するために以下の機能を導入します。

### (1) 休憩機能：自然景観を楽しみながら町民も来訪者も快い休憩ができる道の駅

快い休憩ができるよう磐梯山や猪苗代湖など本町を代表する景観を楽しめる場を整備します。

- 地域のシンボリック観光資源である磐梯山や猪苗代湖を眺めながら、快適に休憩できる施設整備
- 観光客に良いイメージを与える眺望を確保する整備  
(展望カフェ・レストランや広場など)

町民憩いの場を整備します。

- 観光客だけでなく、町民が集い、憩える場となるような施設整備  
(温泉や集会施設など)

利用者の多様なニーズに呼応した施設を整備します。

- 様々な利用者の利便性が向上するようなニーズを捉えた休憩施設を整備  
(添乗員スペースや授乳室など)

明るく清潔なトイレを整備します。

- いつ訪れても明るく清潔なトイレを維持できる仕組みづくりの構築

24時間利用可能な休憩施設を整備します。

- 無料で24時間利用可能なトイレ等の休憩施設整備

広く利用しやすい駐車場を整備します。

- ゆとりのある適切な規模算定を行い、接続道路が渋滞しない動線計画を実施
- 全ての人に配慮したユニバーサルデザインを取り入れた駐車場の整備



道の駅に近接した菜の花畑  
(千葉県南房総市 道の駅とみうら)  
※設置位置周辺では、「そばの花」や  
「アサザ」がきれいに咲きます。



市民憩いの場(温泉、小上がり休憩室)  
(宮城県石巻市 道の駅上品の郷)



道の駅内の授乳室(女性専用)  
(秋田県横手市 道の駅十文字)

#### <今後、基本計画などで検討する内容>

- ・ 磐梯山や猪苗代湖を眺めることのできるレストランや広場等の設置位置を検討します。
- ・ 町民が求める憩いの場について、アンケート調査等を実施します。
- ・ 道の駅利用者・観光客の多様なニーズを捉えるため、アンケート調査等を実施します。
- ・ 適切な規模の算定や接続道路からの動線など、利用しやすい駐車場のレイアウトを検討します。また、身体障害者用駐車場には、雨が降っても濡れずに施設内に移動できるようなユニバーサルデザインを検討します。



## (2) 情報発信機能：会津の玄関口として広域的に的確な情報を受信・発信する道の駅

会津地方の玄関口として、近隣市町村との連携により広域観光拠点として整備します。

- 磐梯山周辺を一つのエリアとして近隣市町村と連携した情報システムの構築を検討し、広域観光の基盤強化を図る
- 会津の玄関口としての位置を活かした情報発信拠点施設として整備

道路利用者が安全で快適な走行を行うために必要な道路交通情報を受信・提供します。

- 道路交通情報や天気情報、防災情報などニーズに即した情報提供

観光客の多様なニーズに対応したきめ細やかな観光情報を受信・提供します。

- 各種メディアを活用し、ニーズに即した観光情報を発信  
(観光案内人や観光ルートマップなど)

各団体が歴史・文化・観光の情報を発信できる交流の場として整備します。

- 団体や個人がそれぞれの情報を発信できるスペースを確保した施設整備  
(ギャラリーコーナーなど)

産業振興を図るため地場産業の情報受信・情報発信拠点として整備します。

- 観光情報だけでなく、農産物や工芸品など幅広く地域の情報を発信
- 出品者への細かな情報発信による、やる気の向上と充実した商品陳列状況の確保  
(メール配信など)



複数の道の駅で共通のテーマで周遊を促す取り組み／菅江真澄の足跡を活かした観光振興に向けて（秋田県）



道の駅にある観光案内所（案内人常駐）  
(福島県喜多方市 道の駅喜多の郷)



売上メール発信システム（宮城県大崎市 あ・ら・伊達な道の駅）

売れたら直ぐに生産者が補充するため、もぎたての野菜が常に並んでいる。生産者の売る意欲・やる気も向上

### <今後、基本計画などで検討する内容>

- 道路管理者や観光協会、近隣市町村などとの連携により、広域観光支援、道路交通情報の提供方法について検討します（観光案内所、ジオパーク事務局の設置、観光施設への予約サービスなど）。
- 町民と観光客の交流を図るため、個人・団体に活用できるギャラリーコーナーの設置を検討します。
- 購買拡大のための情報発信と同時に地元生産者のやる気を向上させるシステムについて検討します。



### (3) 地域連携機能：地場産品を味わい農業と自然を体験できる道の駅

地場産品を地域を越えた交流や体験の素材として活かす施設を整備します。

- 地場産品をただ買うだけではなく、収穫作業を体験することで購買意欲の向上を図る
- 農業、漁業などを交流や体験の素材として活かすことで、「持続可能な観光」への活用を図り、地域産業振興を目指す  
(遊魚レクリエーションの場の提供、そば打ち、中ノ沢こけしの絵付け、つる細工体験など)
- 他にはない道の駅ならではのイベントを実施し、地域全体の活性化を図る
- 観光客だけでなく地元のリピーターを確保できるような施設整備を目指す
- 周辺の道の駅や既設観光施設と連携してイベントを開催するなど、地域全体の活性化を図る

「いなわしろブランド」の開発と定着を図り、地域経済に貢献できる施設として整備します。

- 地域の特産品やそれらを使った新たな商品開発を行い「いなわしろブランド」として販売し、猪苗代町らしい道の駅を目指す
- 低農薬野菜や新たな品種の作付けを農家に推奨し、「ブランド力」を高める
- 農業と観光業の融合を図り、相乗効果による地域全体の活性化を図る

表 猪苗代の特産品

生鮮食品	磐梯トマト	アスパラガス	七ツ森牛乳
加工食品	そば	磐梯黄金みそ	あげまんじゅう
	笹だんご	ふなの甘露煮	山菜加工品
	自然酒地酒蔵	健康米(おかゆ)	磐梯黄金餅
民芸品	湯の華	中ノ沢こけし	つる細工
その他	花き		

(資料：第六次猪苗代町振興計画、福島県市町村要覧 他)

地場産品の販路を拡大します。

- 地元の小さな商店で販売されている地場産品などを販売し、さらなる販路拡大を目指す
- 「ふるさと産業」や「ふるさと特産品」の宣伝や販路拡大を効果的に行う

雇用の場、地域活性化の起爆剤となる施設を整備します。

- 地元商店街や既設の直売所などの物販ブースも設けることで、地域活性化の起爆剤となるような施設整備を目指す
- 観光拠点、地域のシンボルとして整備することで、地域全体の経済振興を図る
- 地場産品の売り上げが向上するような仕組みづくりを確立することで、出品者のやる気を促し、地域活性化の起爆剤とする
- 高齢化が進む農業生産者の販売が可能になるように整備することで、雇用の拡大を図る



農業体験から食体験、歴史体験など  
様々な体験学習を実施  
(いなわしろ体験学習推進協議会)



新鮮な野菜や果物、海産物、工芸品等、自慢の品物を、ずらりと並んだ軽トラの荷台に乗せて直接販売  
(毎月1回)  
(岩手県雫石町)

### ＜今後、基本計画などで検討する内容＞

以下のアイデアやキーワードを基に、アンケート調査や関係機関との協議などにより具体的な整備内容を検討していきます。

#### 具体的アイデア・キーワード

- 地場産品と観光が融合した体験施設の整備（そば打ち体験など）
- 産直市場+α（6次産業加工場、宅配センター、カンファレンスなど）
- 近隣市町村と連携した共同イベントやスタンプラリーの実施など
- 地場産品のお得な情報の提供、出品者へのメール送信による細かな商品在庫管理など
- 日常消費と一味違う“発見と体験”がある旬の市場を訴求し、商店街や近隣生鮮スーパーとは利用目的、利用頻度において住み分け
- 安定した収入が可能となる産直システムの構築（ホテルやペンションとの連携など）
- 地元商店などのアンテナショップ、〇〇〇〇ウィーク、週末イベント
- 集中宅配センター（お手軽ショッピング、物流センター）
- 継続的な魅力を持ち利用される施設設定、2期作（ウィークディと週末）2毛作（昼と夜）
- アグリベンチャーや地域ブランドの育成、アグリビジネスの起業支援

#### (4) 防災機能：町民や道路利用者が安心して避難できる道の駅

事故および災害時（雪、火山、地震）の町民や道路利用者の一時避難場所として利用できる施設として整備します。

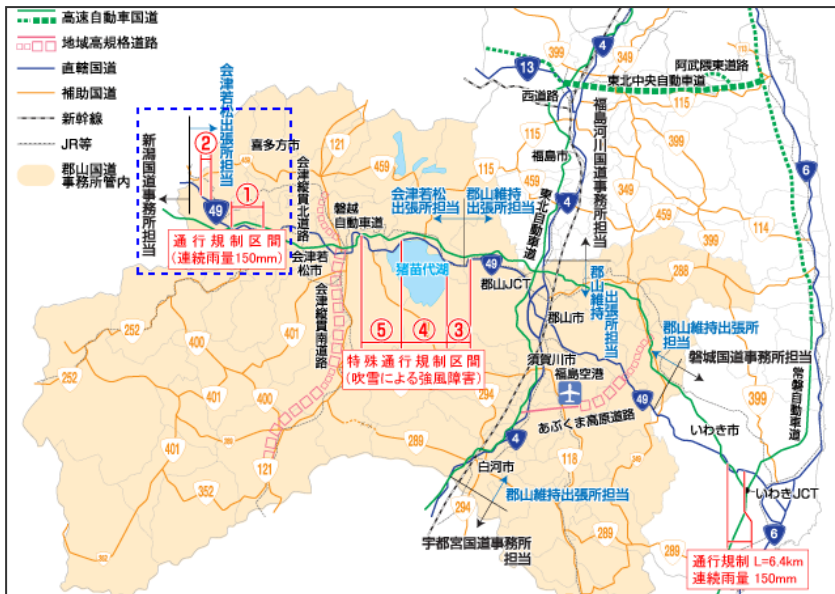
- 災害時に町民や道路利用者が一時的に避難できる施設整備を行う

緊急時や災害時の支援活動拠点として利用できるスペースを確保します。

- ドクターヘリの離着陸場を整備
- 災害時に自衛隊などの活動拠点となる施設整備を行う

災害時に地域連携が図られる運営体制を整備します。

- 物流が途絶えた場合などに、地元生産者から直接仕入れた農産物を販売するなど、日頃から地域と連携した運営体制の整備を行う



国道 49 号の通行規制区間



国道 49 号通行止め時の状況（H22.12）

資料：国土交通省郡山国道事務所資料



広い駐車スペースを活かした活動拠点  
（岩手県陸前高田市 道の駅高田松原）

資料：平成 23 年度 東日本大震災を考慮した道の駅に関する研究（財）国土技術研究センター



物流が滞る中、地元農家からの野菜類の販売  
（宮城県大崎市 道の駅三本木）

#### <今後、基本計画などで検討する内容>

- 道路管理者や医療機関などの関係機関との協議により、防災に関する具体的整備内容（一時避難場所としての駐車場利用、水や非常食・非常用電源の確保、通常時からの連絡体制の構築方法など）やヘリポートの設置位置について検討します。

#### (5) その他機能(集客機能)

猪苗代町民は「背広・スーツ」、「靴・バック」、「家電製品」等の買回り品を、郡山市で購入する割合が高くなっています。また、福島県を訪れる観光客のうち、県内が3割、県外が7割、一人あたりの観光消費額は県内観光客の約11,000円に対し、県外観光客は24,000円と2倍以上となっています。

今後は町民の買物の利便性向上や観光消費額増加、さらには就労の場を拡大するために、「集客機能」を有した道の駅整備の検討を行っていきます。

#### ＜今後、基本計画などで検討する内容＞

- ・集客施設を検討する際、日本国内で展開しているアウトレットモールがあります。
- ・アウトレットモールは消費不況の中、市場が拡大している数少ない業態となっています。また、地域経済の起爆剤としての地元の期待も大きく、北海道から沖縄まで全国各地にアウトレットモールはオープンし、自治体ぐるみで積極的に誘致するところも多いのが現状です。しかし、一方で経営破たんするケースや、閉鎖など淘汰の時代に入っていることも確かです。
- ・アウトレットモールは近隣市町村も含めた地元商店街や既存大型店と競合しないという点でも検討すべき価値はあります。
- ・今後は、宮城県仙台市や栃木県那須町にあるアウトレットモールの動向などに注視しながら、実現可能性について検討していきます。



## 6. ゾーニング

### (1) 条件整理

ゾーニングを計画するにあたっては、以下の点に留意しながら進めます。

#### ●交通面

- ・ 磐越自動車道および国道49号、国道115号を利用する交通量に対応する駐車場、休憩施設を計画します。
- ・ 大型車や観光バスの入込が多いことを踏まえ、接続道路からの入りやすさや利用しやすい駐車場の動線を計画します。
- ・ 接続道路の渋滞発生や交通の妨げにならないような計画とします。
- ・ 出入口については、基本計画において道路管理者や警察との協議を踏まえて決定します。

#### ●利用面

- ・ 接続道路の通行車両から施設が存在が分かりやすく、アクセスしやすい計画とします。
- ・ 駐車場から各施設、各施設間の連絡がしやすい動線を確保します。
- ・ ユニバーサルデザインに対応し、子供から高齢者まで利用しやすい計画とします。
- ・ 開発行為に伴う必要施設（雨水調整池等）、ヘリコプターの離着陸を考慮した計画とします。
- ・ 磐梯山や猪苗代湖など本町を代表する自然景観を楽しめる場にレストランや広場を計画します。
- ・ 将来的に集客施設を誘致できるような施設配置とします。

#### ●景観面

- ・ 景観形成重点地域における景観形成基準に適合する計画とします。
- ・ 周辺の田園風景を活かし、調和する計画とします。
- ・ 周辺に対して、圧迫感のない施設計画とします。

## (2) 導入機能・施設の整備方針

ゾーニングの計画を行うにあたり、各機能の整備方針・配置方針を整理します。

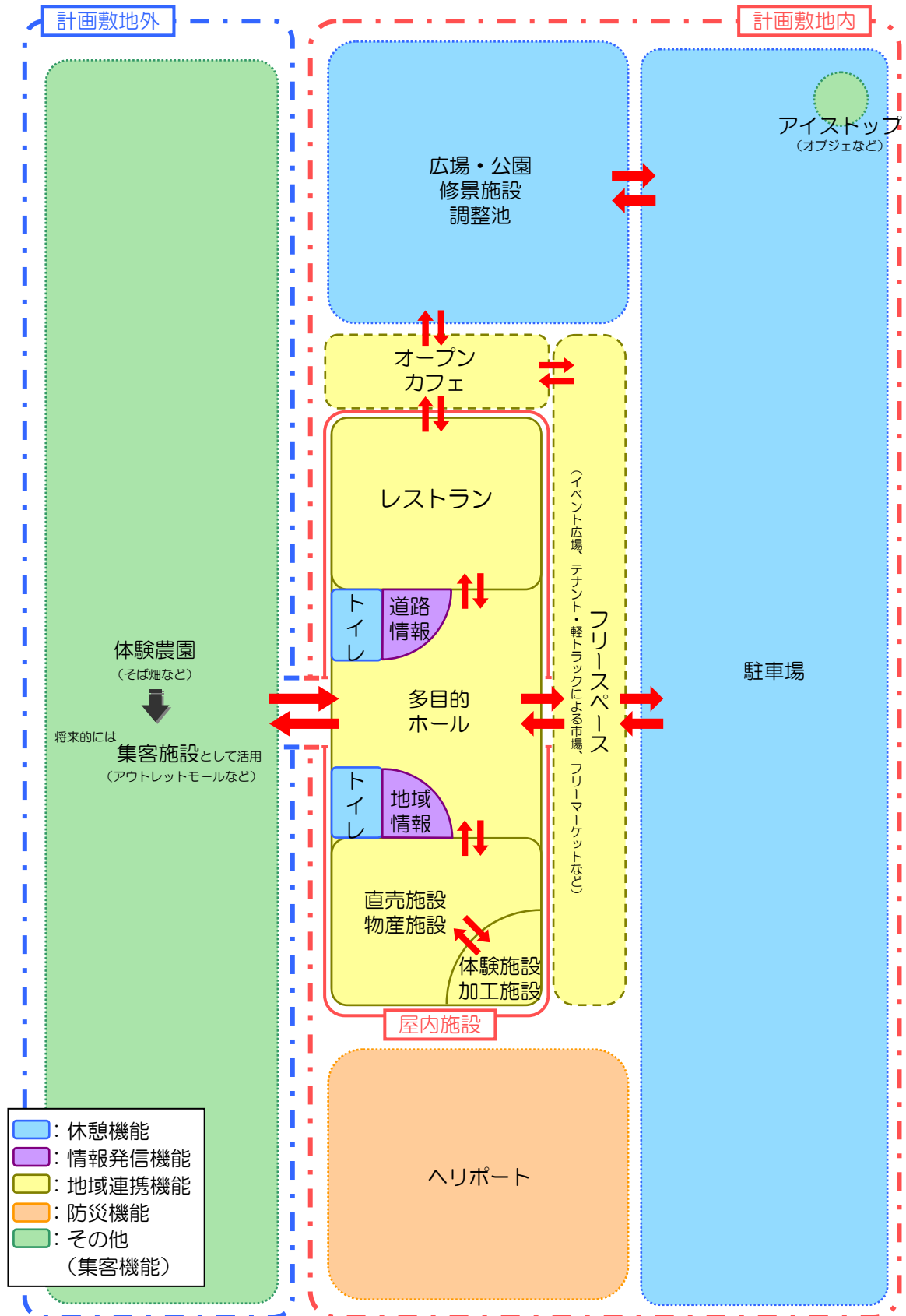
導入機能・施設			整備方針・配置方針
休憩機能	駐車場		<ul style="list-style-type: none"><li>・磐越自動車道および国道49号、国道115号を利用する交通量に十分かつ適正に対応する駐車場を整備します</li><li>・規模は道路交通量データを基に、NEXCO（旧日本道路公団）の基準や道の駅に関する調査資料、他事例等を勘案して算出します</li><li>・磐越自動車道と国道49号は大型車が多く（大型車混入率が20%以上）、観光バスの入込が多いことを踏まえ、接続道路からの入りやすさや利用しやすさに配慮した動線を計画します</li><li>・接続道路の渋滞発生や交通の妨げにならないような計画とします</li><li>・身障者車両に関して、スペースの確保や施設へのアクセスのしやすさ、雨よけの設置など行い、ユニバーサルデザインに配慮した整備を行います</li></ul>
	トイレ		<ul style="list-style-type: none"><li>・道の駅の基本機能として、十分かつ適正な規模の24時間利用可能な施設を整備します</li><li>・施設規模は、駐車スペース数等からNEXCO（旧日本道路公団）の基準や事例を勘案して算出します</li><li>・ピーク時対応（特に女性）や、ユニバーサルデザイン対応などの設置を考慮し、十分かつ適正な規模の施設を計画します</li><li>・利用者の利便性とアクセス性を確保しつつ、本施設の他の機能にも関心を引きやすい配置とします</li></ul>
	広場		<ul style="list-style-type: none"><li>・地域のシンボルの観光資源である磐梯山や猪苗代湖を眺めながら快適に休憩できるよう、眺望に配慮した配置とします</li><li>・リラックス、遊び等に利用できる多目的な広場を整備します</li><li>・調整池や緩衝緑地帯等と一体的な計画を行い、修景施設として整備します</li></ul>
	その他		<ul style="list-style-type: none"><li>・添乗員スペースや授乳室など様々な利用者の利便性が向上するようなニーズを捉えた施設を整備します</li></ul>
情報発信機能	道路情報案内		<ul style="list-style-type: none"><li>・交通情報だけでなく、災害情報についても提供します</li></ul>
	地域情報案内		<ul style="list-style-type: none"><li>・町内の観光情報、イベント情報についての案内を行います</li><li>・猪苗代町の情報はもちろんのこと、磐梯山周辺を一つのエリアとして広域的に情報を受信・提供します</li></ul>
	その他（多目的ホール）		<ul style="list-style-type: none"><li>・案内人の常駐等、十分な活用がなされる施設とします</li><li>・敷地内の他施設とのアクセスに考慮した配置とします</li></ul>
地域連携機能	特産品提供施設	直売施設	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の農産物や地場産品の販売を行う施設として計画します</li></ul>
		物産施設	<ul style="list-style-type: none"><li>・駐車場からの視認性が高い配置計画とします</li></ul>
	体験施設	加工施設	<ul style="list-style-type: none"><li>・加工のプロセスを見せる等、購買者に対して興味を抱かせる施設計画とします</li></ul>
		体験施設	<ul style="list-style-type: none"><li>・郷土料理や地域の工芸などが体験実習できる施設として計画します</li></ul>

導入機能・施設		整備方針・配置方針
防災機能	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や道路利用者が一時避難場所として利用できるよう、余裕をもった広さを設定します</li> <li>・緊急時や災害時の支援活動拠点となれるようなヘリポートの離着陸場を整備します</li> </ul>
	非常電源・ 備蓄庫等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に活用できるよう、十分かつ適正な容量の施設・備品を整備します</li> </ul>
集客機能	アウトレットモール等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的に集客施設を誘致できるような施設配置とします</li> </ul> <p>※誘致が決定するまでは、そば畑などの体験農園としての活用も検討します</p>

＜今後、基本計画などで検討する内容＞

- ・ 今後は関係機関と協議しながら、施設計画・設計を具体化していきます。

### (3) 施設配置(案)





## 7. 実現に向けて

### (1) 主体的な住民参加の推進

#### ①計画段階からの住民参加

にぎわいのある道の駅とするためには、町民の方々が道の駅の運営に主体的に係わり、“自分たちの道の駅”というオーナーシップ（所有感）を持つことが重要です。そのために本基本構想をたたき台として、生産者や消費者（町民、飲食店経営者など）、さらに道の駅サポーターの公募など計画段階から町民の方々を巻き込み、猪苗代町らしい事業計画策定を検討します。手法としては合意形成ワークショップやアンケート・ヒアリングの実施が考えられます。

#### ②住民参加による産業活性化

単なる産直市場ではなく、町内商店街の個人商店、飲食店経営者、若手料理人などのアンテナショップとしてブースを出店したり、6次産業化の推進や地域ブランド品づくりのための食品加工所等、テストマーケティング支援サービスなどの提供が考えられます。

### (2) 事業手法

#### ①一体的整備と財源確保

道路管理者との「一体的整備」を目指し、県との連携を図ります。財源の確保にあたっては、特定交通安全施設等整備事業や農村総合整備事業、ふる里交流拠点事業など各種補助事業が考えられます。

#### ②民間活力の活用

PFI事業により民間活力を活用して「道の駅」を整備している事例もあります。

#### ③マーケティングと段階的整備

収益事業機能部分については事業リスクも大きいことから、地元生産者などの販売意向や通年での商品確保についてのヒアリング調査、主なターゲットとなる利用者を対象とした商品ニーズや導入施設の把握についてのアンケート調査などにより検証を行い、また社会実験などを行いながら段階的に整備していくことも必要です。

### (3) 管理・運営

#### ①民間感覚での経営

管理・運営については、採算性を確保しつつ、町直営または指定管理者としての第3セクター、民間事業者などが考えられます。「道の駅」は公共公益事業と収益事業を併せ持つ施設であり、公共公益機能部分の維持管理を担うとともに「道の駅」の整備目的を達成するために大きな社会的責任を果たすこととなります。収益事業部分については採算性を確保する必要があるとともに民間感覚での経営が求められており、地元民間を主体とした「まちづくり会社」などによる指定管理者制度の導入などが考えられます。

#### ②テナントリーシング的視点によるマネジメント

商業デベロッパーのテナントリーシング的視点による管理運営が重要であり、以下の管理運営業務が考えられます。

- 賃貸運営：賃貸ブースの契約・管理・保守業務
- 共同代行：共用ブース、共用設備の管理・保守ならびに配送等共同業務の代行
- 情報販促業務：生産スケジュールや商品の販売管理のシステム化、販促・各種イベント開

- 催・ショッピングサイト・顧客管理の企画・運営業務とブランド管理業務
- ・ 調査研究業務：6次産業化による新商品開発、異業種連携等の研究開発業務
  - ・ 経営管理業務：売上・システム・要因・施設・防災防犯の管理とコンプライアンス・CSR等の推進業務

#### (4) その他留意点

##### ①法規制のクリア

設置位置は優良農地であるため、「農業振興地域の整備に関する法律」いわゆる農振農用地の除外と「農地法」による農地転用が必要となっています。特に農振農用地の除外については、時間がかかることから早めの協議が必要となります。

また、景観形成重点地域に指定されており、基準の遵守が必要となります。

##### ②用地の確保

設置位置について権利者調査と地権者との用地交渉による用地の確保が重要であることから早めの対応が必要となります。

##### ③大規模集客施設の出店可能性

例えば、町内の商店街や生鮮スーパーと競合しないアウトレットモールは、現在仙台に2店が出店し、1千万人規模以上の商圈が必要といわれ、現時点で飽和状態となっています。しかしながら観光地としての優位性を武器にアウトレットモールをマネジメントする大手デベロッパーに誘致の働きかけを行う必要があります。

##### ④復興特別地域（特区）の認定

復興特別地域（特区）の認定による規制緩和や税制優遇措置などによる免税などについて今後、検討する必要があります。

## 8. 委員会名簿

委員会等の名称		(仮称)道の駅猪苗代整備検討委員会
委 嘱 予 定 期 間		平成23年12月26日 ～ 平成25年3月31日
委員会設置の理由		猪苗代町の情報発信、地場産品の販売、就労の場の確保等による若者の定住促進及び地域経済の活性化、更には住民の安全を守るすべての災害対策等を目的とした道の駅を整備するため委員会を設置する。
区 分	氏 名	所 属 ・ 役 職 等
学識経験者	トキノヤ 時野谷口 茂	会津大学短期大学部産業情報学科 教授
商工団体	イチノセ 一ノ瀬 正 一	猪苗代町商工会 会長
観光団体	サ トウ 佐 藤 正	(社)猪苗代観光協会 会長
農業団体	イ ガ ラシ 五十嵐 孝 夫	あいづ農業協同組合 代表理事組合長
農業団体	ナガ マ 長 沼 カズ 一 夫	猪苗代町農業委員会 会長
農業団体	ア ベ 阿 部 清 美	猪苗代町土地改良区 理事長
住民代表	スズ キ 鈴 木 武 喜	猪苗代町議会 議長
住民代表(女性)	ジン 神 トシ子	猪苗代町商工会女性部 部長
住民代表(女性)	オオカワ 大川原 けい子	あいづ農業協同組合猪苗代支部女性部 部長
住民代表	ワタナ 渡 部 ユ 裕 一	(社)猪苗代青年会議所 理事長
住民代表	ササ 笹 岡 マサ ト 人	猪苗代地区区長会 会長
住民代表	ワタナ 渡 部 シゲ フ 信	翁島地区区長会 会長
住民代表	ヨシ 吉 ノ 野 ミツル	千里地区区長会 会長
住民代表	フル 古 カワ フミ カズ 和	月輪地区区長会 会長
住民代表	サイ 齋 トウ ナオシ 直	長瀬地区区長会 会長
住民代表	フル 古 カワ タイ イチ ロウ 泰 一 郎	吾妻地区区長会 会長
住民代表	ワタナ 渡 部 ショウ ジ 治	公募者
住民代表	トウ 東 ジョウ カズ 一 雄	公募者
住民代表	カサ 笠 マ ヒロ ユ 子	公募者
住民代表	ワタナ 渡 部 ツネ オ 男	公募者
行政機関	クマ 熊 ガイ ジュン ヨ 子	国土交通省郡山国道事務所 所長
行政機関	ハタ 畠 トシ ユキ 行	福島県会津地方振興局 局長
行政機関	カ 甲 イ ケイ イチ ロウ 敬 市 郎	福島県会津農林事務所 所長
行政機関	ハ セ 長 谷 川 キヨシ 潔	福島県喜多方建設事務所 所長
行政機関	ア 阿 ベ トシ キ 敏 紀	福島県猪苗代土木事務所 所長